

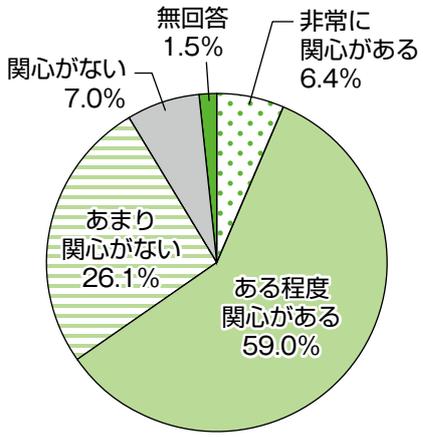
# 平成27年度人権・同和問題に関する市民意識調査を行いました

この調査は5年ごとに実施しています。多くの皆さまにご協力いただきありがとうございます。

※詳しくは、市ホームページをご覧ください。

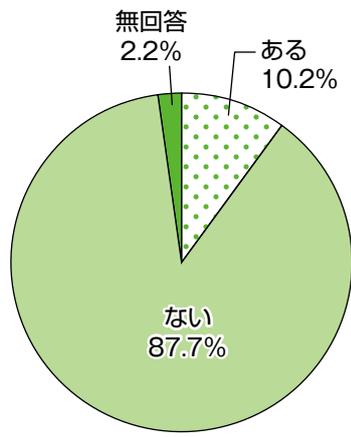
- 調査対象 無作為に選んだ20歳以上の市民3,500人
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 平成27年10月5日(月)～11月6日(金)
- 質問 33項目
- 回答率 36.2%

## ○人権問題に関心を持っていますか



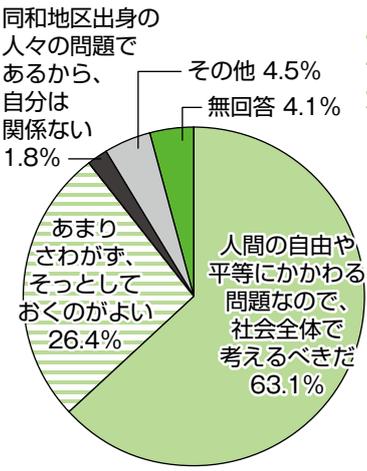
「関心がある人」が6割を超えているものの、「関心がない」「あまり関心がない」人が3割程度です。「人権」は身近で大切な権利です。人権問題や差別の解消は、さまざまな人権問題に関心を持つことから始まります。

## ○5年以内に、人権侵害を受けたことがありますか



1割の人が「人権侵害を受けたことがある」と回答しています。万一、人権侵害を受けたときは、一人で悩まず相談することが大切です。

## ○同和問題の解決について、どうお考えですか



同和地区出身の人々の問題であるから、自分は関係ない「6割を超す人たちが社会全体で考えることを望む一方で、「そっとしておくのがよい」と考える人もいます。同和問題解決のためには一人ひとりが同和問題を理解する必要があります。

# あなたの人権 わたしの人権

## 命のしりしー

### 『母子健康手帳』



母子健康手帳は、妊産婦や乳幼児の健康状態が急に変化しやすいこと、この時期が生涯にわたる健康づくりの基盤となることから、お母さんとお子さんの健康を守るために作られました。

日本で始まった母子手帳は、現在30力国以上に広まり、たくさんのお母さんや命を守っています。

昨年の9月15日～17日の3日間、アフリカのカメルーンで、第9回母子手帳会議が開催されました。

会議では15歳の江草裕美さんが、自身の母子手帳を手にして、「母子手帳は医療の記録という役割だけでなく、母から子へ生きた記録を引き継ぐものです」と述べ、会場は感動の拍手に包まれました。



母子手帳には、「この手帳を活用して、お母さんとお父さんがいっしょになって赤ちゃんの健康、発育に関心を持ち、お父さんもお子さんの様子や自分の気持ちなどを積極的に記録し、お父さんが成人されたときに、お母さん・お父さんから手渡してあげましょう」と、書いてあります。

佐賀市の母子健康手帳には、「母子手帳は永久保存、20歳の記念に親から子へ」と記され、ほのぼのとしたイラストの中に成長の記録を記入するようになっています。

未来のお母さん、お父さんに、母子健康手帳にしっかりと記入していただければ、生まれてくる子どもの命が「待ち遠しくて、いとおしくてたまらない」という気持ちになるはずだと思います。

(社会同和教育指導員・中村 勝英)

◎問い合わせ  
 人権・同和政策課 人権啓発係  
 (ほほえみ館内)  
 ☎40・7367 FAX 34・4549  
 ✉jinken@city.saga.lg.jp